学校番号	T4001

令和８年度　芸能文化科

教科	芸能文化	科目	（学）芸能鑑賞	単位数	1	年次	1～4
使用教科書							
副教材等	自主教材						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

実技の教育力を重視し、人材バンクを活用した、プロの落語家を特別非常勤講師として招聘。単なる「鑑賞」に終わるのではなく、地理歴史的学習が十分できるような工夫を行うように授業を展開していきます。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
上方の歴史・地理および文化を学ぶとともに、上方落語の体感を通して、大阪という町が培ってきた人間関係を理解している。
【思考力、判断力、表現力等】
落語や漫才を通じて学んだ言葉の大切さや会話の重要性を活かして、自らの表現に取り入れることができている。
【学びに向かう力、人間性等】
自らの生まれた地域に誇りを持ち、上方芸能の学習を通じて自尊感情を高めることができている。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・上方の歴史・地理および文化を学ぶとともに、上方落語の体感を通して、大阪という町が培ってきた人間関係を理解している。	・落語や漫才を通じて学んだ言葉の大切さや会話の重要性を活かして、自らの表現に取り入れることができている。	・自らの生まれた地域に誇りを持ち、上方芸能の学習を通じて自尊感情を高めることができている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

月	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
後期のみ開講(前期は開講しない)						

10月	話芸・落語の源流	落語の歴史　日本近世史における芸能史について学ぶ。	a:落語を歴史の中に位置づけて理解できている。 a:自分の希望した楽器の演奏方法が理解できている。 b:日本近世史における芸能史における落語の役割について考えることができる。 c:日本近世史における芸能史の理解に意欲的に取り組んでいる。	鑑賞ﾉｰﾄ 実技試験 観察	鑑賞ﾉｰﾄ 実技試験 観察	鑑賞ﾉｰﾄ 実技試験 観察
11月	大阪人と笑い 大阪商人	笑いの構造とその類型～大阪における笑いの真相。 近世大坂の商業組織と人々「お店」に生きる人。	a:庶民生活の中に深く根付いた文化について理解できている。 c:笑いと大阪の関係の理解に意欲的に取り組んでいる。	鑑賞ﾉｰﾄ 実技試験 観察	鑑賞ﾉｰﾄ 実技試験 観察	鑑賞ﾉｰﾄ 実技試験 観察
中間考査						
12月	蝦蟇の油と大道芸人	近世における旅行の娯楽性と、落語の口裁き	a:旅行の娯楽性と落語の関連、落語の口裁きについて理解している。 c:　旅行の娯楽性と落語の関連と落語の口裁きの理解に意欲的に取り組んでいる。	鑑賞ﾉｰﾄ 実技試験 観察	鑑賞ﾉｰﾄ 実技試験 観察	鑑賞ﾉｰﾄ 実技試験 観察
1月	八百八橋と天神祭 室町の笑い「狂言」 狂言「柿山伏」	大坂の祭りと水都大坂	a:大阪の祭りの歴史について理解している。 b:水都大阪と呼ばれるようになった経緯や所以について考えることができる。 c:大阪の祭りの歴史の理解に意欲的に取り組んでいる。	鑑賞ﾉｰﾄ 実技試験 観察	鑑賞ﾉｰﾄ 実技試験 観察	鑑賞ﾉｰﾄ 実技試験 観察
2月	笑いと人権 江戸落語「時そば」 上方落語「時うどん」	能・狂言の歴史 足利義満と能楽の関係	a:能や狂言の歴史について理解している。 b:室町期に能が出現した時代背景や必然性について考えることができる。 c:能や狂言の歴史の理解に意欲的に取り組んでいる。	鑑賞ﾉｰﾄ 実技試験 観察	鑑賞ﾉｰﾄ 実技試験 観察	鑑賞ﾉｰﾄ 実技試験 観察
期末考査						

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度